

件吉昌情操聰敏、勤學匪懈、望請補得業生竹野親當滿九年替、令遂其業者、寮依牒狀申送者、省依解狀申送如件者、從二位行大納言兼皇太子傳侍從源朝臣兼明宣依請者、省宜承知依宣行之、符到奉行、

左中弁

左小史

天祿元年十一月八日

〔江談抄雜事〕熒惑星躅備前守致忠事

被命匡房大江

云、備後守致忠、天曆御時爲藏人、召天文博士保憲、有召仰事、致忠爲御使、往反之時、粗知天文事、後於厠向人指陳天文之事、忽有躅之者、矢中柱、致忠驚云、尤理也、於厠談天文、故熒惑星躅吾也、今年有木星之助、故中柱云々、

〔帝王編年記十七條〕永延元年、安倍晴明是時人也、掌天文曆數事、昔者一家兼兩道、而賀茂保憲以曆道傳其子光榮、以天文道傳弟子晴明、自此已後兩道相分、

〔官位訓二〕天文曆道の事

天文曆道の事を不合の沙汰する人有、其はじめをまらずと見へたり、陰陽道昔は一家として兩道を兼たり、まかるに加茂保憲といふ名人、天文道を以て安倍晴明に授け、曆道を息子光榮に譲る、是より兩道にわかる、なり、それ天文といふは、天地變災雲氣非常の怪みある時、其様子を見て是は吉瑞、是は凶兆と明らむ役也、されば此見立は凡人の及ぶべきにあらず、又曆道は年々の曆を沙汰する、是は算數を以て致す所也、加茂保憲名譽の達人なれば、我子の光榮に天文をさづけたくは思ふらめど、器量及ばざるがゆへに、曆道ばかりをさづけ、弟子の晴明に大事の天文道をあたへられ侍るは、晴明が器量拔群すぐれたるがゆへなり、まことに保憲我子の愛にをぼれて、天文を光榮に譲らば、天下國家の爲ならず、家の瑕といひ、詭りを後代に残